

行政視察報告書

委員会名(会派名)	議会広報等特別委員会	報告者	長井由喜雄委員長、佐野大輔副委員長、齋藤和也委員、近藤隆行委員、高橋妙子委員、田中淑子委員、タナカ・キン委員、齋藤信行委員
視察日程	令和7年1月28日～1月29日		
調査事項 及び 視察地	①岩手県金ヶ崎町議会 広報広聴に関する活動、取り組みについて		
	②群馬県玉村町議会 広報広聴に関する活動、取り組みについて		
参加議員(委員)	長井由喜雄委員長、佐野大輔副委員長、齋藤和也委員、近藤隆行委員、高橋妙子委員、田中淑子委員、タナカ・キン委員、齋藤信行委員		
報告者	長井由喜雄 委員長		
①岩手県金ヶ崎町	【調査目的・内容】 広報・公聴に関する活動、取り組みについて		
	【所感】 金ヶ崎町議会広報常任委員会の編集姿勢 まず、金ヶ崎町を視察研修先として選んだことについては、市を除く「町村議会広報全国コンクール」で19年連続で入賞を果たしている町であったことがあげられる。ホームページで閲覧できる「議会だよりかねがさき」の紙面構成において、見出し、写真、余白など、議会だより作りにおいて重要とされる要素がバランス良く表現・配置され、「燕市議会ノートブック」においても制作過程を学ばせてもらうことが欠かせないと委員長として思ったことにある。 応対いただいたのは伊藤雅章議長、阿部典子委員長、平志乃副委員長はじめ6名の皆さんであった。説明の中で特に重要であると感じた点を記したいと思う。 ①「編集モットー」では、議会だよりの中身、文章などについて「中学生が読んでも理解できる編集」としていること、「議員が積極的に携わり、議会事務局に頼らない」こと、「スピード発行を大事にして定例議会翌月の半ばには町民に届ける」こととの説明があった。これを 3 本柱として議会だよりが能動的発行物となっている。 ②「編集作業」では、議会終了翌日を第2回編集会議として、まるまる3日間、9:00～17:00の時間を費やして作業を進める。伊藤議長が全ページのラフ面を描き、写真担当、一般質問担当、特集記事担当など議員それぞれが役割を担って原稿作成にあたっている。 ③「予算・決算を含む議案の審議」では、「写真や表などを効果的に活用」することはもちろん「町民の関心のある質疑を中心に」取り上げ、何よりも「大きなのは見出しだ」と、記事に導入する見出しの重要性を上げられた。 ④「トピックス」を各ページの下に書いているが、これは「議会と住民との意思疎通ができるように」「議会活動を知ってもらうため」として編集委員みんなが分担して書いている。この「ヒントは新幹線の電光ニュース」だったとことだが、町民も関心を持って読むところではないかと感じた。 ⑤「追跡記事」が毎号ではないが掲載される。これは、「議会の提言に対し、町はその後どう取り組んだのか」を掲載し、「議会のチェック機能」を町民に示すページとなっている。		

① 岩手県金ケ崎町	⑥さらに「まちの声 町民主体のページ」をもうけ、町民視点から関心を持つ事業について声や写真の掲載をしている。これらは、最終ページで掲載される懸賞付きパズルを設ける中で、応募時に町民のコメントを寄せてもらっていることで繋がりも作れている。 これらをまとめる形で編集委員会は「議会広報編集の 12 ヶ条」を持っている。「編集委員は1期目の議員は必ず経験する」として議会全体の基本認識ともなっているのも、とても参考となる内容なので全部記すことにする。 1・町の広報も議会広報も、共にいいまちづくりのためにあるもの。町政批判紙に終わらないように。 2・常に創意工夫、過去の号にこだわらない。優良広報を参考に。 3・「結果」に至るまでの「議論の中身」が命。 4・読者は議場にいない。解りやすく、かみ砕いて知らせる。やさしく、ほりさげて。 5・常に町民とのキャッチボールを。町民主役のページも。 6・表紙は玄関。シリーズもので追う。 7・見出し、記事、写真をバランス良くレイアウト。 8・写真は大小小おりまぜて、人物を入れ動きのあるものに。 9・イラスト、図表、グラフを活用。 10・積極的に診断(クリニック)してもらう。 11・事務局任せにしないで、議会の、議員の思いを伝える意気込みが大事。 12・編集委員のチームワークで、発行が待たれるような広報紙づくりを。 以上 説明をいただいた上で、当市の委員全員が質問したが、答えをいただいた中で特徴的なものを記したい。 「はじめはコンクールなどのレベルではなかった。岩手県内の他町村のレベルが高かった。議会が何をしているのか、わかってもらうためのレイアウト工夫、クリニックが大事。『読んでもらうためにはどうしたらいいのか』『読んでもらえない議会広報ではだめ』。地方新聞社に行き、プロの目から校正してもらった。町民とのキャッチボールが大事だ。我々の議会広報の紙面が盗まれるのは良いこと。さらに盗まれないかならないと思っている。町民の写真などは、自撮りしたものを提供いただくこともある。」 金ケ崎町の議会だよりの編集委員会ではいつでも順風というわけではないようで、当然いいものを作ろうとする中での意見の対立や紙面の見直しもされてきている。副委員長からは、「議長が、おもしろいから議員の質問時間を載せたことがあったが、私は反対だった。質問は中身の問題ではないかと話す中でこの企画は2回で終了した。」というエピソードの紹介もあった。 金ケ崎の議会だよりは、「議員の質問を一人 1 ページで載せている。質問者数もいつもの例から見るとかぎられているので」とのことであったが、読みやすい紙面、一般質問の内容などから、当市のノートブックでの一つの大きな課題であると思っている。
② 群馬県玉村町	【調査目的・内容】 広報・公聴に関する活動、取り組みについて 【所感】 1、玉村町議会広報特別委員会の編集姿勢 玉村町は、2009 年(平成 21 年)にも視察研修をさせていただいた。当時においても、取材については委員それぞれがカメラも持ちながら自らの足で取材し、記事とするとのことで、その後の当市の議会便りづくりにも大きな刺激を得たことを思い出す。また、議会だよりの発行の責任者である議長の姿勢と意向が編集委員にもしっかりと伝わり、共通の認識のもとで議会だよりの作りがされていることを驚きを持って感じた。

② 群馬県玉村町	今回研修をさせていただくところとして候補としたのは、その後の編集姿勢と、当市と同じ専門事業者から議会だより編集について関わりのある議会であるということがあげられる。 石内國雄議長、松本幸喜委員長、小林一幸副委員長はじめ特別委員の皆さんから応対いただいた。 玉村町においては、特別委員の選任は各常任委員会から3名を候補として議長が指名する形をとっている。編集にあたって、①「読みやすく、わかりやすい紙面づくりを目指し、難しいお役所言葉はできるだけ使わず、使う場合は解説をつける」、②「毎号 24 ページを基本として、発行日については平成 24 年から定例会翌月の第 3 月曜日としている」、③「玉村町では多くの議員が一般質問を行うが、質問の内容をより詳しく知ってもらうため、一人 1 ページを割り当てる」、④「議員自らが町民にインタビューし、町や議会に対する声を掲載している」とのことであった。 玉村町議会では、2023 年 1 月 16 日号が 100 号となることから、町内にある、この年ちょうど創立 100 周年を迎える県立玉村高校との協働で数ページをコラボ企画ページとした。この高校生との共同企画は、玉村町議会、議会だよりを発行する特別委員の皆さんにとってもとても大きな刺激となったようだ。 まず委員会が高校を訪問し、グループに分かれて「議会広報」「議員の仕事」についてディスカッションを行い、その後高校生が議会を訪れて「議員として目指していること」などのインタビューを受けるなど交互交流の後、高校生が 7 つのチームに分かれて表紙の案をそれぞれが作ったり、実際に記事を作ったりしたとのことで、実際に 100 号、101 号の表紙は高校生が作ったものが採用されている。 燕市では吉田、分水、燕中等の 3 高校があり、分水高校の 2 年生が近年庁舎を訪問するとともに議場などの見学もしている。昨年当市の議会だよりでも訪問について紹介しているが、18 歳から有権者となり高校在学のちょうど 3 年生が年度末には全有権者となる。玉村町の企画も参考にさせて頂きながら、議会が大人となっていく若者たちと燕市のこと、その中で存在する議会のことなどをキャッチボールしていくことも「議会広報等特別委員会」の役割であることを考えていきたいと思う。 玉村町議会だよりは 103 号から表紙の大胆なリニューアルがされた。タイトルには「Tamamura」のローマ字が斬新に使われるものとなった。さらに町で活動する団体の皆さんが表紙を飾るなど、多くの町民が登場するものになっている。これについては「議員のなり手不足もある中で議会の働きかけが必要であると考えて刷新した」とのことだった。 裏表紙では表紙で登場した団体を議会広報を担当する議員が一人担当で取材し、写真、記事とともに構成する紙面になっている。一人取材の不安も正直思うところであるが、編集委員それぞれの責任と議会だよりづくりへの意識は格段に高まるであろうと感じた。 議会だよりは、そもそも 4 年に 1 回行われる選挙によって選ばれた議員が関わることになり、さらに半期 2 年で編集委員構成も変わるため、他議会の議会だよりの良いものは「真似させていただく」ことは大事なことだと思う。 今年度の視察研修も大きく良い刺激を得たものとなった。今後の「つばめ市議会ノートブック」に、参加した委員の声を出し合いながら反映できるよう取り組んでいきたい。
報告者	佐野大輔 副委員長
① 岩手県金ケ崎町	【調査目的・内容】 市民に伝わりやすい、また市民の方々から手に取って中を見てもらえるような議会広報を作るために町村議会広報全国コンクールで毎年連続入賞している金ケ崎町議会さんから議会広報のこだわりや町民参加の記事の作り方などをお聞きする。 【所感】 金ケ崎町議会さんでは、燕市とは違いは根本的なところから挙げると、議会広報を常任委員会として設置しているところが大きな違いとして、いかに議会広報が議会全体として大事に進めているかということがまず設置の位置付けからも違っていました。

その上で、議会広報の誌面については、町民の方が数多く登場する誌面構成をしており、議会広報の編集モットーは「ありのままに解りやすく」「議員の力で」「スピード発行」の3つを軸に編集を行なっておられるとお聞きしました。

レイアウトから編集の細かなところまで議員の方々が責任を持って編集に携わり、定例会の翌月第一木曜には全戸配布されるということで、スピード感もさることながらそこまでに出すという熱意も私たちも見習って進めていかななくてはならないと感じました。

燕市では、レイアウトや紙面割りについては会議録センターさんからおおよその部分は提案をいただいております、もちろんどちらがどうということではなく、燕市はその部分を委託できているからこそ質の高い、また議員 2 年ごとに変わっても一定程度のデザインが担保できるメリットもあります。

また、金ヶ崎町さんはオリジナルの取り組みで、

- ・議員の動きがわかるように「議会トピックス」を各ページに掲載
- ・議員が町民の意見を聞きに行く「議会ほっとミーティング」を開催
- ・読者からフィードバックをいただく仕掛けとして「プレゼント付きのクロスワードパズル」

など紙面からだけでなくさまざまな工夫が至る所にありました。

そして、誌面全体、議会として大事な町民主役のページを作成するというこだわりなど、自分たちで自ら時間をかけて編集しながら、細かなところまでいかに手に取ってもらうか、町民に見てもらうかを考えていて、学ぶところがたくさんあった視察となりました。

もちろんそれぞれやり方はありますが、私たちは委託先に全体のレイアウト等に時間をかけなくてもいい分、さらに市民の方にどう見てもらえるかの取り組みを練ったり、今回の金ヶ崎町さんから参考に行きとることは取り入れていけたらと思います。

どこの議会広報も一緒にいかに住民の方に手に取ってもらえるか、その上で見たいと思う誌面にできるか、さらなる議会広報のあり方についてしっかりと考え、実践したいと思います。

ちなみに金ヶ崎町にはトヨタの完成車組立工場があり、アクアやヤリスクロスなどを製造されているとのこと、駆にもアクアのミニチュアがありましたが、町内で作られているこれらの車を購入する際に 5 万円の購入補助があるとお聞きし、そちらも参考になりました。

② 群馬県玉村町

【調査目的・内容】

前日の金ヶ崎町議会さんと同様に町村議会広報全国コンクールで毎年連続入賞している玉村町議会さんから議会広報のこだわりや写真を使った特徴的な表紙のデザイン構成や町民の方々が多く登場する広報の作成の方法や効果についてお聞きする。

【所感】

前日の金ヶ崎町議会さんとの違いは、玉村町さんは燕市と同じようにレイアウト等は委託先から提案をしていただいていた作成しており、燕市と同じやり方ではありますが、違いが何点かありました。

主に上げていくと4点で、

- ・学生や児童生徒との接点の多さ
- ・写真の効果的な活用
- ・表紙のポップさと見出し
- ・追跡記事

1番の違いは、学生や児童生徒との接点の多さです。

主権者教育の一貫として、教育委員会主導ではありますが、子ども議会、そして子どもたちの傍聴も対応しているなど小さい頃から議会との接点を作る取り組みがなされています。

市内の高校を巻き込み、誌面づくりのアイディアや表紙のデザインを任せたり、大学生に取材したりと参考になる点が多くありました。

	この点については、玉村町さんでは議会のなり手不足が深刻になっており、いかに若い人に興味を持ってもらうかを共通認識として持った上で、議会だよりの見直しを行なったそうです。 燕市も現在はまだなり手不足という状態ではないですが、これからのこと、また議会に興味を持っていたくことで、活発な議論が進んでいくことから燕市でも取り組んでいかなければいけないと改めて感じました。 また、誌面の見た目も特徴的で、特に表紙は写真を使いつつポップにレイアウトされており、議会広報というよりもフリーペーパーのような手にとってもらいやすい雰囲気のあるデザインがとても参考になりました。 さらに、議会広報だとその定例会でどういう答弁だったかのみを取り上げることが多いのですが、その質問の結果どうなったかという追跡記事も掲載するなど、読者の方々が続けて読みたくなるような仕組みづくりもされていて、そういった点も真似できたらと感じました。 それ以外の様々な取り組みもありましたが、一番の違いは議会広報に対する議員の方々のモチベーションの高さからくるものと感じました。 議会広報委員長を1期目の方が務めておられ、まだまだ燕市議会もやれることはたくさんあるよーと言っているように非常に参考になりました。
報告者	齋藤和也 委員
① 岩手県金ケ崎町	【調査目的・内容】 1. 議会広報の編集方針や発行の流れ(「ありのまま」「わかりやすさ」「スピード発行」) 2. 議会広報の課題(表紙デザイン、トピックス掲載、追跡記事の継続性) 3. 議員と住民のつながりを強化する取り組み(クロスワードの応募と議会への声を集約) 【所感】 金ヶ崎町議会の広報活動は、常任委員会として設置され、編集方針や発行の流れが明確であり、取り組みが進められている。特に「追跡記事」は透明性が高く、住民の納得感を高める要素となっている。さらに、住民参加型の「議会クロスワード」など、周知のための工夫が見られた。 1:わかりやすさ・主体性・スピード感を重視した広報方針 議会広報活動における「中学生でもわかりやすい編集」、「議員が主体的に携わる編集」、「議会定例会後のスピード発行」といった方針は、地域住民への情報伝達を迅速かつ正確に行う上で非常に効果的である。これらの取り組みは、住民にとって議会活動をより身近に感じられるよう配慮されており、自治体の情報公開の模範的な姿勢といえる。住民にとって「わかりやすく」「タイムリーな」情報提供は、議会への信頼感を向上させるだけでなく、住民参加を促進する重要な基盤となる。このような先進的な取り組みは、他地域でも参考にすべきモデルケースである。 2-1:広報誌のマンネリ化を打破する新たな試み 一方で、広報誌の表紙写真のネタ切れやマンネリ化が課題されていたが、改善に向けた前向きな取り組みが進んでいる点が印象的である。例えば、地元の金ヶ崎高校の高校生にデザインを依頼するなど、若い世代との結びつきを深める姿勢は非常に素晴らしいアイデアである。このような取り組みを通じて、地域の若者が議会広報を身近に感じるとともに、地域社会への主体的な関与のきっかけを作ることができる。さらに、こうした協力体制を広げることで、新たな視点や創造性を取り入れ、より多くの住民にとって魅力的な広報誌に発展させることが可能である。 2-2:追跡記事の重要性と住民への透明性向上 また、一般質問後の進捗や成果を伝える「追跡記事」の取り組みは、非常に透明性が高く、住民の信頼を深めるために重要な役割を果たしている。こうした「ありのままの、わかりやすい情報発信」は、議会

	への関心を高めるだけでなく、住民に「自分たちの声が反映されている」という実感を与える貴重な取り組みである。進捗報告の頻度や具体性をさらに向上させることで、住民がより納得感を持って情報を受け取ることができる。 3:議場内外の活動を幅広く発信する重要性 さらに、ページ下のトピックスには議員の活動を「議場内」に限定せず、「議場外」での取り組みや住民の生活への影響についても丁寧に広報している。議会の取り組みはもちろん、議員に人となりも見え、議会への理解を深める一助となるのではないかな。また住民参加型の「議会クロスワード」やプレゼント企画は、住民の関心を引きつけるだけでなく、広報を通じて意見や提案を得る双方向のコミュニケーションを促進する優れた手法である。 4:視察を活かした今後の広報改善策 今回の視察では、さまざまなアイデアや具体的な取り組みが示されており、これらを活かして自地域の議会だよりにも新たな工夫を取り入れる可能性を強く感じた。 例えば、 ・ 市内中学校や高校と連携し、学生の意見を反映させる ・ 専門用語を避け、「誰でも理解できる言葉」で内容を伝える ・ 「その後どうなった？」コーナーの追跡記事やトピックスの追加 ・ クロスワードなど住民参加型企画の導入 といった工夫を取り入れることで、より多くの住民にとって身近で興味を持てる広報誌にすることができる。
②群馬県玉村町	【調査目的・内容】 1.議会広報の現状と課題(「たまむら議会だより」の編集・発行体制等) 2.「1 議員 1 ページ」制度の導入と市民の反応(制度導入の経緯と目的) 3.高校生・大学生との連携状況(高校生とのコラボレーションの経緯、高校生の議会に対する関心の変化) 【所感】 玉村町議会の広報活動は、議会の情報をより多くの市民に届けるための工夫がなされており、特に「1 議員 1 ページ」制度の導入や高校生とのコラボレーションといった取り組みは、他の自治体にとっても先進的な事例となる可能性があると感じた。議会だよりの刷新は市民の反応には賛否があり、特に高齢者層からは「従来の議会だよりの形式と異なり読みにくい」という意見も聞かれる。現状ではアンケートなどのフィードバックを十分に得られていないため、町民アンケートの実施などを通じて、多様な市民のニーズを把握し、それを反映させる仕組みづくりが必要であると感じた。 1. 議会広報の現状と課題 ・通常であれば作成スケジュールに合わせると、議会活動の報告が約1か月遅れになるという課題がある。より迅速な発行するために、議員の作成、議会事務局のスケジュール管理、誤字等文章修正、会議録センターとの直接訪問での校正など様々な人たちの努力によって、最短スケジュールで配布ができています。 2. 「1 議員 1 ページ」制度の評価と課題 「1 議員 1 ページ」の制度は、議会広報の個別性や多様性を高める点で有効に機能している。導入されて7～8年が経過しており、今の形に落ち着くまで5年ほどかかった。元々は今の燕市と同様に1ページ2名体制であった。レイアウトをはじめ様々な形を模索して、評価されて予算付けされた経緯があった。 3. 高校生・大学生との連携の可能性 高校生とのコラボレーションのきっかけは、特に玉村高校100周年、議会だより100号の節目であったことであった。取材をさせていただき、議員が高校を訪問し、生徒と対話を重ねることで、高校生から議会に対する率直な意見を聞く機会が生まれた。高校生にとっても、議会の仕組みや議員の役割をより身

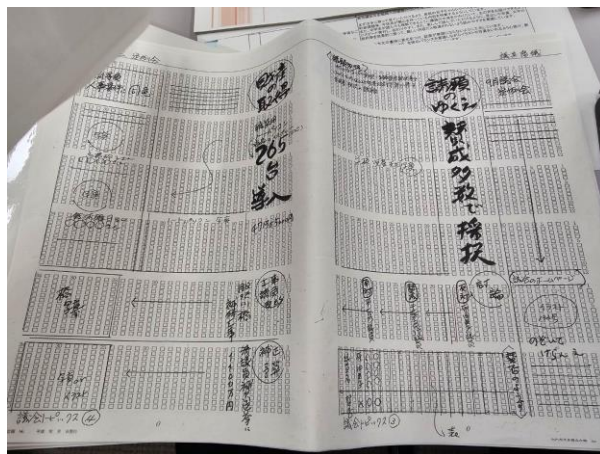
	近に感じる良い機会となった点は、非常に意義深いと考える。特に、議員が怖い存在だと思われがちであることや、そもそも広報紙が読まれていないということ直接伺えるなど、議会を知っていただくうえで非常に有効だったのではないかと感じる。また玉村町には群馬県女子大学があり、大学訪問や学生と関わる機会はあるものの、議会広報としての連携についてはまだ確立されていない状況であり、今後の課題である。 4. 議会広報のさらなる発展に向けて ・「1 議員 1 ページ」制度導入の有無について検討: 予算上の問題があるが、活発な議会である玉村町議会の議員 1 名 1 名の一般質問がどのような内容を訴えているのか詳細に知ることができ、議会の重要性を知る一助になる可能性がある。 ・高校生・大学生との連携強化: 授業の一環として議会見学や意見交換会など燕市内の高校と連携し、議会の役割を知る、若年層の政治参加意識を高めることができるのではないかと感じた。
報告者	近藤隆行 委員
① 岩手県金ケ崎町	【調査目的・内容】 議会広報の編集方法や発行スケジュール、今後も課題や展望について 【所感】 編集モットーが明確で、それをしっかり実践している印象を受けた。 特にはスピード発行の段取りは驚異的であった。定例会初日より編集会議をスタートし、ページ事に担当分けをしっかりとっており、また議員全体で協力して議会だよりを作成していることがわかった。 ページのレイアウトや、フォント、余白、写真使いなどが上手く、見やすい紙面となっていた。 大まかなレイアウトは議長がやっていることも驚きであった。その他、ひとり 1 ページの一般質問、トピックス、追跡記事などは、より理解しやすい議会だよりするための工夫が随所に見られた。 また、町民参加型のクロスワードパズルのコーナーも、面白い取組である。 様々勉強になったので今後活かしていく。
② 群馬県玉村町	【調査目的・内容】 議会広報の編集方法や発行スケジュール、今後も課題や展望について 【所感】 金ケ崎町議会同様、スピード発行が特徴的だった。やはり、担当分けをしっかりとしているのも同様であった。 さらに特徴的だったのは、表紙や議会だより内での町民登場である。様々な事業や、トピックスに合わせて登場し、町民の声を掲載するのはいいアイデアだと感じる。 こちらも同様にページのレイアウトや、フォント、余白、写真使いなどが上手く、見やすい紙面となっていた。やはり、ひとり 1 ページの一般質問はわかりやすいと感じる。 その他、毎回常任委員会のページを設けることや、議会川柳は面白い取組だと感じました。今後の議会だよりに活かしていく。

報告者	高橋妙子 委員
① 岩手県金ケ崎町	【調査目的・内容】 広報広聴に関する活動、取り組み(議会広報の編集方法や発行スケジュール、今後の課題や展望について)を学び、燕市議会だよりに活かすことを目的とする。 【所感】 町民の皆さんに読んでいただけるよう、バランスを意識しながらイラストや写真を入れる工夫や、表紙では、双子ちゃんシリーズ、住民が関心を持っている出来事の特集するように心がけて、広報紙のデザインやレイアウトに力を入れているところに刺激を受けた。 広報委員の任期は 2 年であり、新人議員は必ず広報委員を経験する点においては、燕市議会の「議会広報等特別委員会」は新人議員の登竜門に通じるところがある。 まず議員本人が議会だよりに親しみをもち、議会だよりをより良くする心掛けが大切だと感じた。 また、誌面組みの段取りに関しては、委員全員での読み合わせ、校正等、長い時間をかけて真剣に取り組んでいる様子をお聞きし、議会だよりに対する熱い想いを感じることができ、大変勉強になった。 燕市においても、金ケ崎町議会の議会だよりの素晴らしい面を取り入れ、活かしていきたいと思っている。
② 群馬県玉村町	【調査目的・内容】 広報広聴に関する活動、取り組み(議会広報の編集方法や発行スケジュール、今後の課題や展望について)を学び、燕市議会だよりに活かすことを目的とする。 【所感】 一番印象に残ったのが、各常任委員会の報告ページを各 1 ページ使っているところである。 住民の皆さんにとって、議員が普段何をしているかよくわからないと言うように、常任委員会もどのような役割を担っているのか、どのような仕事をしているのか、知っていただける機会は少ない。議会だよりにより委員会の様子を掲載することで、住民の皆さんに知っていただける素晴らしい機会であると感じたと同時に、燕市議会においては、会派の様子をたまに掲載するのも良いのではないかと思った。 議員の一般質問のページも各 1 ページずつ使っており、読む方々にとってはわかりやすく、読み応えがあるのではないかと感じた。 すぐに燕市議会だよりに落とし込むことは困難であったとしても、何かしらの形で、各議員の想いを議会だよりを通して知っていただくことは大切だと思う。 これからの燕市議会だよりにより、何が必要か、何が不必要かを改めて考える良い機会となった。
報告者	田中淑子 委員
② ① 岩手県金ケ崎町 群馬県玉村町	【調査目的・内容】 広報・公聴に関する活動、取り組みについて 【所感】 まず、写真が多く、市民の方々の笑顔がとても印象に残りました。 「議会だより」を見てくださる方は、どちらかといえば、高齢者の方が多いので、写真を取り入れたり、文字を大きくしたりと、工夫をしたらいいかと思う。

報 正 署	タナカ・キン 委員
① 岩 手 県 金 ヶ 崎 町	【調査目的・内容】 議会だよりについて
	【所感】 レイアウトを委員がやっているのにビックリ。 一般質問が 1 人 1 ページは、燕でもやっていただきたい。 請願に対して、「賛成」「反対」の討論が載っていたが、こういうものこそ議員の考え方がわかるので、燕でも検討する必要がある。 表紙等、住民の登場が目立つが広報のようである。見出しの文字の大きさも工夫されていて見やすい。 また、説明する議員から一生懸命さが伝わってきて、とても好感がもてた。
② 群 馬 県 玉 村 町	【調査目的・内容】 たまむら議会だよりについて
	【所感】 こちらの表紙は、金ヶ崎町よりもデザインの工夫がされている。 この表紙であれば市民登場もありかも。 玉村町も一般質問が 1 人 1 ページであり見やすい。 他のページもタイトルの文字のバランスなど考えられている。 燕のノート・ブックもデザイン的には良い所は多い。紙面にもう少し余裕がほしい(お金の問題)と思う。 こちらも委員さんの一生懸命さが伝わってきてすばらしい。 ノート・ブックの委員に必要なのは、その取り組み方である。
報 正 署	齋藤信行 委員
① 岩 手 県 金 ヶ 崎 町	【調査目的・内容】 町村議会はコンクールがあるので、委員会の取組が違うのではないかと考え、内容を伺いました。
	【所感】 市の広報との違い、どのくらい読まれているのか聞きました。 取組みとしては特別委員会ではなく、常任委員会であり力の入れようがわかった。
② 群 馬 県 玉 村 町	【調査目的・内容】 町村議会はコンクールがあるので、委員会の取組が違うのではないかと考え、内容を伺いました。
	【所感】 金ヶ崎町議会の議会広報の表紙と比べると、玉村町議会広報の方は工夫が感じられた。 委員に各常任委員長が入っていて、情報の共有など良いと思った。

【視察の様子】

①岩手県 金ヶ崎町議会広報常任委員会



②群馬県 玉村町議会広報特別委員会

